



北のシュプール

第488号

発行 北海道勤労者スキー協議会機関紙部 編集責任者 金濱 茂
 札幌市白石区平和通3丁目北 3-13-202 tel&fax:011-784-3272 郵便振替 02700-7-48231
 ホームページ: <http://www.wsah.info/> e-mail: wsaj.hokkaido@gmail.com

常設スキー学校終了

スキー学校部 石川 芳昭 記



今年で40回目を迎える常設スキー学校は、12月26日から28日の三日間は手稲ハイランドで、1月3日から16日(6日~8日は休校、16日は豪雪のためスキー場閉鎖)は藻岩山スキー場の10日間、合わせて13日間実施しました。全体的に雪が少なく、特に藻岩山は9日まで、第一リフトしか動かず、リ

フト代も特別料金(5時間券全員1800円)で実施されました。狭いゲレンデで他のスクールもたくさん入っている中で、事故に十分注意しながら無事終わることが出来ました。最終日は豪雪でリフトの運行、ゲレンデの圧雪が進まず、最終的には閉鎖となりました。この日は一つの学童クラブ(27名)と一般1名が入っていましたが、早めに連絡し、スキー教室を中止することを決定しました。

今回のスキー学校は、三年ぶりに開校した昨年に続き、口座事前振り込み、桂ヶ丘山荘入口前(外)でのゼッケン渡し等のコロナ対策を講じて実施しました。

今回の特徴は、ほとんどが学童クラブで、一般の受講者がたいへん少なかったことです。受講者は、のべ452名(昨年は482名)で30名減、講師はのべ135名(同124名)でした。学童クラブ(団体)の参加が、のべ434名(同433名)で1名増、一般がのべ18名(同49名)で31名減でした。昨年の受講生の方に18通(同58通)案内を出しました。また、メール・ファックスによる事前予約では14件(同25件)ありました。ただ、学童クラブで事前申し込みより多くの欠席が出たところがあり、講師が余り気味の日もありました。講師が多いことは受講者にとっては充実した指導が受けられたという利点がありますが、もう少し正確な数の把握が課題として残りました。今回は、リピーター、HPを見て、友達からの紹介、の予約が多かったです。ハガキアンケートは5名から来ましたが、受講者は「来年もきたい」「楽しく上手になった」と満足していました。



多くの回数講師をしていただきました指導員の皆様にこの場をかりて感謝申し上げます。

(昨年、初歩のマンツウマン指導で一日で滑れるようになり、今回、三日間コースを受講した二年生女子の母から)〇先日はスキー教室でたいへんお世話になりました。三日間参加させていただき、毎回「楽しかった」と話しておりました。たくさん褒めていただき、優しく指導して下さったと聞いています。(中略)〇〇先生の指導がとってもお上手で、心弾ませて帰ってきました。お家でレッスンのお話をたくさん聞かせてくれて、お友達ができたのも嬉しかったようです。1年前(小1)1日だけ参加させていただきました。1日でとても上達し感激しておりましたが、学校の授業でもできることが多くて楽しく取り組めたようです。夫婦共々、大変感謝しております。来年もぜひ参加させていただきたいと思います。またお会いできる日を楽しみにしております。

「スキー教室」にも コロナの後遺症？



岩見沢ホワイトフレンド

秋元 篤子 記

2024年度は、1月7日(日)・8日(月・祭)に岩見沢萩の山スキー場で行いました。当初はグリーンランド・ホワイトパークの予定でしたが、圧雪車の故障でゲレンデの安全を保つことができないとの連絡がスキー場からあり、急遽開催場所の変更を余儀なくされ、結果、リフト料

金の負担増から指導にあたった人たちへの講師料も支払えず、大赤字のスキー教室となってしまいました。

赤字のもう一つの要因は、受講生の少なさです。今回の受講数は13名しかいませんでした。ゲレンデに雪がなくて中止、そしてコロナで中止が数年続き、昨年再開したものの前年度の受講生からの紹介やリピーターに頼っていた募集では広がりがありませんでした。以前はこの方法でもお断りする位の受講希望があったのですが、コロナ禍になり、親同士の交流の機会が減ったのか、はたまた最近の親同士のお付き合い状況が変わったのか、原因を分析しながら今後の募集方法も考えて行かなければならないと考えています。それでも、初めて参加した1年生の親も本人も非常に喜んでおり、そこからの広がりを期待できる予感があります。

さて、教室の中身はどうだったかというと、初歩の受講生4名に講師4名、初級受講生2名に講師2名、5・6年生の中級受講生4名には講師1名、大人受講生3名に講師1名と、受講生13名に対し講師8名と非常に手厚い体制となり、技術の向上に貢献出来ました。どの組も、二日間で目を見張る変化があり大きなレベルアップを図りました。特に初歩組は歩くのもままならない状況からの出発でしたか、1日目午後からはリフトに乗って暴走防止のロープをつけてではありますが滑り降りてきました。2日目はロープを外し本人の技量のみで左右へのターンをしながら滑り降りることもできるようになりました。1日目午前中は、口数が少なかった子どもゲレンデを滑って降りてこれるようになると口数も次第に多くなり、楽しくなってきたのがわかります。

スキーが上手くなるための第一条件は「スキーは楽しい」と思えることです。スキー教室が「楽しかった!!」と思ってもらえたならば、スキー教室の目標は達成できたと思います。全くのボランティアでのスキー教室でしたが、事故もなく無事に終えることができました。来年は、25名くらいの受講生を目指して取り組みたいと思います。

小学校冬休みスキースクールを開催 設



スカディスキークラブ 菅 幸彦 記

スクール開催の1週間前のこと、グリーンランドスキー場から「圧雪車が故障し修理に時間がかかるので降雪があった場合、講習にならない状態が予想される。現時点でキャンセル、または場所の変更を検討願います」とのメール。準備は全て終えているのに、「いまさら」と愕然。迷っている時間はありません。急ぎ関係者に電話。相談の結果、日時も場所も変更。親にメール連絡とともに手分けして電話かけ。当初より参加者は13名減りましたが、開催に

こぎつけることができました。

1月13日から2日間、萩の山スキー場で40名の参加を得て、第22回スキースクールを開催しました。初歩クラスは、スキーは初めてという1年生に2・3年生を加え19名、人数が多く、初歩は人手がかかるので、クラブ会員だけで足りるのかと心配でしたが、やはり足りない。この数年、多数のベテラン指導員が高齢等で退いています。今後の運営を考えなければならない時期にきたと感じました。

スキー場は柔らかい良い雪質。しかも、天気は晴れて風もなく穏やか。子供達は元気です。毎回のことで、成長の速さには驚かされます。子供に理屈は必要ありません。やらせて、褒めて、「できた」と自信を持ってばどどん上達します。その姿を見ることができなのがスクールのだいご味です。

「親子雪まみれ」総勢28名の参加

札幌スキーフレンド 齊藤進一 記



1月14日、毎年恒例の「親子で雪まみれ」例会をハイランドで開催しました。

この日は、穏やかな天気に恵まれ、絶好のスキー日和。参加者は、学童保育もりもり元気クラブから、1年生～5年生の6名、保護者が8名(6家族)。東会長の紹介でボーダーの若者3名、10歳の女の子1名(いずれもオーストラリア在住)、親戚の方1名の5名。フレンドのメンバーは7名、他クラブ1名、知人1名の総勢28名の参加となりました。クラス分けは、「親

子でのんびりチーム」、「親子でガンガンチーム」、「初歩チーム」、「ボーダーチーム」。写真班は横山さんが担当してくれ、各チームの滑りを沢山写真に取ってくれました。参加した保護者の方たちは、お子さんと一緒に滑り、我が子の成長の速さに驚きながら、ご家族で楽しく滑られていました。あるお母さんは「今年は、少々

身体が疲れていて、足が重たかったのですが、詳しく優しく教えてもらおうと、とても楽しくもっと滑りたくなりました。大人になり、しっかり見てもらってアドバイスを受けられるなんて、なかなか出来ない事なので、最高の学びとなりました」と感想を寄せてくれました。

また、今回の例会に参加したメンバーの知人が、スキーの楽しさを実感し、クラブへ入会をしてくれました。ワンポイントのアドバイスをしながらも、とにかく親子が雪にまみれて、スキーを楽しんで頂けるよう、今後も企画を充実させて行きたいと思っています。

各部からのお知らせです

能登半島地震被害への義援金のお願い

2024年1月1日に石川県能登地方で発生した地震により、各地で人的被害、家屋倒壊などの大きな被害が出ています。被害に遭われた皆さまに心よりお見舞い申し上げます。新日本スポーツ連盟関係では、今のところ大きな被害に遭ったという報告はありませんが、現在、各会員の状況を情報収集しているところです。今回の地震で被災された会員の方々をはじめ、すべての被災された方々への義援金を呼びかけます。お寄せいただいた義援金は、被災された会員への復興支援、または自治体による義援金（石川県「令和6年能登半島地震に係る災害義援金」など）に活用します。すべての人が、スポーツ活動を含む「日常生活」を早く取り戻せるよう、多くのみなさまのご協力をよろしく願いいたします。

北海道勤労者スキー協議会では、新日本スポーツ連盟の要請に応じて、クラブ、個人から、スキーフェスティバル、クラブ対抗スキー競技大会等で義援金を募ることにいたしました。

皆様のご協力を宜しく願いいたします。

北海道勤労者スキー協議会

【札幌市との懇談会報告】

副理事長 石川 芳昭

11月27日、ORE札幌ビルで札幌市との懇談会がありました。これは、新スポーツ連盟道連盟が札幌市に要望を出し、その回答書を事前にもらって、説明を受けたあと追加質問や要望を述べる形で行われました。スキー協としては、①札幌市で行なっている小学生に1回の1000円リフトクーポン券の回数を増やすこと②中学校のスキー授業でバス代やリフト代の補助、スキー用具のレンタル等の実施、を要望しました。札幌市の回答は、①リフトクーポン券の拡大は考えていない②中学校のスキー学習については、インストラクター派遣する事業をしているが他の補助の予定はないとの事でした。それに対して、「スキーをするのに高額なリフト代がネックになっている。1000円1回のクーポン券では不十分なので回数を増やしてほしい。また、江別市では学校のスキー学習2回するところには、1回分を補助している。札幌でも補助してほしい。」と要望しました。インストラクター派遣は、中学校だけでなく小学校でも必要だということも加えました。この話し合いで分かったことは、昨年度のクーポン活用的是1753枚(19.8%)インストラクター派遣は81校751人、歩くスキー15校125名という事でした。